

社会・文化・教育



キーワード：アフリカ、地域開発、経済格差

生活者の視点に立って考える地域開発

現代社会学部 現代社会学科 特任助教
中澤 芽衣 NAKAZAWA Mei

研究の内容

私は2013年から東アフリカ・ウガンダ共和国の農村に住み込み、地域に暮らす生活者の視点からその地域に内在する問題を探求しています。地域に暮らす人びとが抱える問題に着目するだけではなく、長い年月をかけて築き上げられてきた文化や社会構造、自然環境、人びとの生き方や考え方を総合的に理解することを心がけています。

多くの地域・国では人口減少社会に転換しつつあるなか、アフリカは1950年以降、人口は増え続け、今後の人口を支えるのはアフリカとされています。国際社会は新たな経済市場としてアフリカに熱い視線を注いでいます。世界的な食料価格の高騰や代替エネルギーの生産拡大などをうけて、外部者による大規模な土地購入や投資といった動きが活発化しつつあります。

アフリカ農村の暮らしに目を向けると、外部者による大規模な土地購入によって、地域の人びとが利用できる土地は狭小していき、その結果、土地をもてない農民の出現や、農村内の経済格差の拡大などさまざまな問題が引き起こされています。国際社会の影響を受けて、農村社会の暮らしが大きく変化し、人びとの生活が困窮していくなかで、これらの問題に目を向けられることはありません。地域の人びとに寄り添い、彼らの主張や思いを発信することで、研究成果を地域に還元できるよう努めています。



外部者によって購入された農地

産学連携・社会連携へのアピールポイント

複雑に問題が絡む現代社会において、現場の状況に即して、実践的に問題に取り組む必要性が高まっています。フィールドワークを通して、生活実態に沿った地域開発の在り方を検討し、地域の人びとと協働して、問題解決に向けて実践的に取り組んでいきたいと思っています。

研究者総覧（中澤芽衣）

URL：https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/200000686_ja.html

